

蕎麦（新しき世界へ 1969 年 1-2 月号）

桜沢如一 著

村田 訳

蕎麦を日本語で”サラシナ”という。アラビヤ、サラセン人の主要産物で、1200 年前、サラセン帝国を建設した人たちの食物であった。アラビヤ人の秀れた体格の源泉である。

かれらは、その強靱な体躯をかって、アジア、アフリカ、ヨーロッパを席卷し、サラセン帝国を建設したが、やがてソバの味を忘れるようになった。つまり、大帝国建設の生理的起因であるサバクの草を忘れ、あとに、”SOBAK”という名前が残った。

(SO はソバ、BAK=Wheat 一麦)

ソバは、いまでは中国と日本でさかんに賞味されている。ということは、かつて、アラビヤ人にサラセン帝国を建設させるほど、ソバが、いかに陽性であるかということをお話している。

冷寒地、熱帯地いずれを問わない、どんな土の上でも、肥料もなく生えるのがソバである。ソバほど陽性(ナトリウム)な植物はない。

本文の複写、複製、転載、その他いかなる方法による使用の際には日本 CI 協会にご相談ください